

## 第6回 武蔵野市市民活動促進基本計画（仮称）策定委員会 議事

平成 24 年 1 月 27 日（金） 18：00～21：00

武蔵野市役所西棟 8 階 812 会議室

### 1. 開会

（今村委員、前田委員がご欠席）

#### ■ 菅原委員長

- ・ 本日もお寒い中、お集まり頂き有難うございます。武蔵野市市民活動促進基本計画策定に向けた最終委員会である。時間の関係で議論が尽くせない点もあろうかと思うが、できるだけ濃密な議論をして、委員会の案としてまとめたいと考えている。
- ・ 検討すべき事項は 2 点。ひとつは本文を出来る限り本意に従うものにする。もうひとつは、具体的な施策について議論することである。例示という形で施策を挙げることになるが、議論は行き適切な表現となるようにしたい。

### 2. 議事

#### （1）計画案について

#### ■ 菅原委員長

- ・ まず計画案について事務局からご提案頂きたい。

#### ■ 森安課長

- ・ 資料 1 について説明

#### ■ 菅原委員長

- ・ P16 の部分について。私が起草する役割だったが、文章化には至らなかった。今後できるだけ早く起草案を皆さんにお示ししたい。記載する事項としては 3 点を想定している。1 点目は、「コミュニケーションの不足」について。市と個人としての市民、市と市民活動団体とのコミュニケーションの不足が信頼の不足を生んでいる、という点を基本的な課題として記載したい。2 点目は、行政側の姿勢について。特に上意下達的な姿勢ではなくて、対等・平等に情報を共有することが必要だという点について記載したい。3 点目は、計画の策定後に、実施後のフィードバックを踏まえて計画の見直しを行う必要があるということに記載したい。
- ・ その他、皆さんから遠慮なくご意見を出していただきたいが、議論の効率化のために、まず資料を提出されている田中副委員長から論点について意見を出していただき、これに追加の論点をお伺いした上で、それぞれの論点について、皆で議論する形としたい。

#### ■ 田中副委員長

- ・ 私からはいくつかの方針を踏まえて修正点を示させて頂いた。パブリックコメントやヒアリングなどを踏まえて、総合的に意見を示したものである。
- ・ 委員会に先立ち、市民協働推進課と MURC とじっくり意見交換を行い、すりあわせが出

来た。本日の資料1にはかなりの部分が反映されていると感じている。本日は積み残した箇所のみをお示しし、事務局案と比較しながら論点を説明したい。

(田中副委員長より、「計画案に対する修正案の抜粋(田中雅文)」20120126版を用い説明。

※以下同資料を「修正案抜粋」として表記)

■ 菅原委員長

- ・ 有難うございました。今修正案抜粋で提示された論点に加えて、追加論点があればご提案いただきたい。

■ 野崎委員

- ・ P16の「市民団体とのコミュニケーションの担保」という記載について。これに加えて、行政職員と団体が同じテーブルに着くという文言を入れていただきたい。行政と民間の間は、長らくの慣習で上意下達的になっている。同じテーブルに着いて話し合いを行うことの必要性を感じる。

■ 西山委員

- ・ 「地域・社会」という記載ぶりに違和感を覚える。これはどういう経緯でこのような表記になったのか。

■ 田中副委員長

- ・ 以前既に議論した点である。地域社会のみだけではなく、グローバルな視線で行動している市民団体もある。こうしたことから、地域・社会という記載ぶりに落ち着いた。

■ 坂口委員

- ・ この市のみ限定されない社会的課題に対峙している団体も武蔵野市内に所在している。こうした団体も含むと言うニュアンスを含めてこのような記載ぶりになった。

■ 笹野委員

- ・ P8、P16にある、「自律、自立」というニュアンスについて。どこまで市民団体に求めるのかという点については、議論が分かれると思う。市民団体も色々であり、行政が期待しているような、自立した市民団体であって欲しいという姿と、実態とではやはり差があるものだと思う。

■ 菅原委員長

- ・ 田中委員からは合計で13点ほどご意見を頂いた。すべての修正について文言を固めていくと、時間がかかるため、今日はこの計画によって伝えるべき内容が、どういう方向であるのか、決めることとしたい。そうすれば全体的な文章は少し余裕をもって考えられるのではないかと思う。提起された論点について、それぞれ意見を頂き、方向性だけ決めたい。

➤ 論点1：P3「I.本計画の目標と基本姿勢」について

■ 田中副委員長

- ・ 修正案抜粋に表記案を提示した。この計画の趣旨からすれば、私の修正案のほうが趣旨を正確に述べていると考えている。

■ 笹野委員

- ・ 「行政を含む」という部分が、その前の文章と重複する部分がある。

■ 菅原委員長

- ・ では、「行政を含む」という部分をとって修正を確定させたい。

➤ 論点 2 : P7 「1-3.市民活動のステップ」

■ 田中副委員長

- ・ 論点としては、ステップなのかステージなのかという点と、図表が必要なのかどうかという点だろう。

■ 野崎委員

- ・ しつこいようだが、ステップという言い方よりは、ステージのほうが良いのではないかと。理由として、市民活動は、このサイクルを行きつ戻りつしながら色々と繰り返していくものであり、ステップというよりはステージという言葉のほうが表現として正しいように思う。

■ 菅原委員長

- ・ ステージというと、行きつ戻りつ、というニュアンスは表現できるか。

■ 野崎委員

- ・ 表現できるように思う。

■ 笹野委員

- ・ 絵と文章とは整合性があったほうがわかりやすいと思う。表に掲載しているような概念を引っ張ったままで見ていると、ステップという表現でないと整合性が取れないと思う。ただ全体の中で表をなくすということになると、茫洋としてしまう。

■ 菅原委員長

- ・ 言葉の問題として、ステップという表現をなくすという方向性もある。もう一度思い醸成期に戻るという野崎委員の表現も理解できる。

■ 西山委員

- ・ この図だと、ステップというよりは、団体の状態を表しているように思う。

■ 坂口委員

- ・ 「時期」という表現が使われているため、ステップというイメージに結びつきやすいのではないかと。

■ 森安課長

- ・ ステップをステージとし、時期を状態という言葉に変更してはどうか。

■ 菅原委員長

- ・ 文中の「残念ながら」という表現は削除したほうがよいのではないかと。活動を止めるのは、社会課題が解決するというポジティブな意味もある。

➤ 論点 3 : 学習の循環的発展、について

■ 田中副委員長

(修正案抜粋を元に、修正趣旨について再度説明)

■ 坂口委員

- ・ 日常的な活動の中に学びがある、という記載のほうが良いように思う。市民活動は活動の中から学ぶというニュアンスが伝わると良い。

■ 笹野委員

- ・ 賛成である。ある活動の結果、違った活動について学ぶ事も出てくると思う。発展には繋がらないが、必要な概念だと思う。

■ 菅原委員長

- ・ 1-5 として学習の循環的發展を記載する必要があるか。

■ 笹野委員

- ・ 「1-4.市民活動団体の自律・自立」の中に含む形でもよいのではないか。

■ 菅原委員長

- ・ 学習という言葉には特定のイメージもある。

■ 森安課長

- ・ この章については、市民活動の定義や市民活動の内容を説明するものだと思う。しかし、今ご議論いただいている点は、振り返りと課題の中で示されるべきものではないか。

■ 田中副委員長

- ・ 実際の活動を見てみると、色々な形にフィードバックをして学びながら進んでいる面もある。そうした面も捉える必要があるのではないか。
- ・ ただ単に活動しているのではなく、課題にぶつかったら学び、また次の活動を行うなど、その節目節目で学習が入っているということは、ある程度押さえるべきではないか。

■ 笹野委員

- ・ 課題そのものというよりは、市民活動そのものに必要な取り組みとして学習を捉える必要があるのではないか。

■ 森安課長

- ・ その記述をすると、市民活動は、常に自己学習をすべきものだというニュアンスを伝えることにならないか。ステップやステージに関する議論において、あるべき姿を押し付けるべきではない、というご意見を頂いたことと整合が取れない。

■ 田中副委員長

- ・ 今すでに、プレイスなどでもチラシの作り方講座なども開催している。実態としてそうした取り組みが行われていることを押さえず、課題やあるべき論として学びを捉えるほうが、上から目線のメッセージにならないか。

■ 西山委員

- ・ 教科書を読んで学ぶだけではなく、実践的にも、自分たちが変わるきっかけをつくっていくというニュアンスを醸し出せると良いと思う。

■ 田中副委員長

- ・ 同感である。

■ 坂口委員

- ・ ステージがあり、そこに学びを投入して、次のステージに行く、というイメージになり過ぎないようにした方が良い。日常の活動の中に学習する機会がある。講座的なものをただ単にどんと市民団体に投入していけばよい、というニュアンスとして読まれないようにしたほうが良い。

■ 菅原委員長

- ・ では、循環的発展という言葉は見直し、活動の中からの学びというニュアンスを書き込むこととしたい。活動の中で学ぶ、自己変革するというニュアンスとする。
- ・ 1-5.として章立てを分離する形になるのかどうかは、全体を見通して整理することとする。

➤ 論点4：P9「2.連携と協働」について

■ 田中副委員長

- ・ 前の計画では、市と市民活動団体との協力関係にフォーカスした記載ぶりになった。今回の計画はそれとは異なり、主語として「市民活動団体・行政・企業といった」という記載を挿入することとしたい。

■ 坂口委員

- ・ 四角囲みの部分は田中委員の修正で良い。しかし、その下の本文の部分はこのままでよいのか。協働の定義が四角囲みで記載されているが、この中に連携の定義は入っていない。

■ 田中副委員長

- ・ 多くの自治体が協働の定義をしているが、あくまで「協働」の定義に過ぎない。本計画では「連携と協働」という言葉を使っているが、これは長期計画の影響を受けている。そのことについて但し書きを記載することとしたい。

■ 西山委員

- ・ 連携というと、市民セクター内の連携、のように同じセクターの中で連携するイメージがある。協働は他セクターとの間での協力関係。

■ 田中副委員長

- ・ 辞書的な意味では、同じセクター間の連携であっても連携と言うのではないか。

■ 笹野委員

- ・ 協働というものは、ジョイントベンチャーのようなものも含めて、同じ目的を持った人が立場を超えて事業を行うという意味だと思う。それに比べて連携については、目的はどうか、協力ができることがあれば協力するということではないか。もともとの語義から離れるように思う。だから、連携は協働の下位概念ではない。

■ 森安課長

- ・ 事務局としても同様に考えたため、該当部分を削除することとした。

■ 田中副委員長

- ・ 「協働」のような、大上段に構えたものではなくて、日常的な協力も存在する。連携という言葉も入れるということにしてはどうか。

■ 笹野委員

- ・ コミュニティセンターの周囲では、共有できる問題意識がある場合に、連携して情報の共有を行うこともある。常に何か連携しなければならないわけではなく、共有できるときは連携する、というくらいのニュアンスである。

■ 坂口委員

- ・ 連携の場合は、協働と違い、目的を共有しなくても連携することもあるだろう。違う目的を持つもの同士が連携することもあるだろう。

■ 野崎委員

- ・ 「協力し合って物事を行うこと」というよりは、「協力し合って活動すること」としたほうがぴったりくるように思う。私たちが普段する活動の中にも、連携ではあるが協働ではない活動もあると思っている。

■ 菅原委員長

- ・ 方向性を決めたい。

■ 坂口委員

- ・ ここで言う連携と協働は、手法のひとつというニュアンスが強い。四角の中に文章を入れ定義として示す必要があるだろうか。枠囲みの中にいれなくても、鍵括弧でかこみ、本文に書けば良いと思う。「定義」として記載する必要もないように思う

■ 田中副委員長

- ・ たしかに前計画でもそのようになっていた。

■ 笹野委員

- ・ 「異なる立場の団体・組織」と言うのは長すぎる。異なる立場であるかどうかはわからない。「異なる団体が」という記載とし、異なる団体が何を指しているかを明記してあれば、それで良いと思う。

■ 坂口委員

- ・ 本計画の趣旨からすれば、市民活動の促進であるため、「市民活動団体と、企業・行政等が」という言い方のほうが適切ではないか。

■ 笹野委員

- ・ 「協力し」という文言はあってもよい。

➤ 論点5：P10「1 計画のミッション」について

■ 田中副委員長

- ・ （修正案抜粋に従い、再度修正の趣旨を説明）

■ 菅原委員長

- ・ まず上の四角囲みについてご意見を頂きたい。

■ 森安課長

- ・ 「促進にかかる」という修正点については、趣旨を了解した。この形でよいと思う。

■ 菅原委員長

- ・ 本文の方の修正はどうか。特に自発・自主、という記載ぶりについてはどうか。修正の

趣旨を生かすということによいか。

■ 田中副委員長

- ・ 市民活動が存在するだけで、意味があるんだということを明確にしたい。

■ 笹野委員

- ・ 側面支援という言葉が新しく出ているという理解によいか。

■ 野崎委員

- ・ P8に側面的な支援という文言がある。

■ 笹野委員

- ・ 側面支援という言い方と、協働という考え方が二律背反するように思う。

■ 田中副委員長

- ・ 自立した団体や人に対しては協働し、それに至っていない段階においては側面支援を行うということになるのではないか。

■ 坂口委員

- ・ 田中案の「すなわち～考え方」を削除してはどうか。

■ 田中副委員長

- ・ 削除しても良いかもしれない。「活動の促進が求められている」とする。

■ 菅原委員長

- ・ 了解した。では考慮して修正したい。

➤ 論点6：P10、「2.計画の位置づけと計画期間」の庁内という記載について

■ 田中副委員長

- ・ 全庁的な、という言い方だと外郭団体などを含まない。全市的な、という書き方にしてはどうか。

■ 森安課長

- ・ 了解した。

➤ 論点7：P12、中間支援組織について

■ 野崎委員

- ・ この点は、活動をしている者にとってはこだわりがある点でもある。市民協働サロンの現況や武蔵野プレイスへの市民活動支援機能の移転について、複雑な思いがある。

■ 菅原委員長

- ・ このアンダーラインでその気持ちを代弁できるか。

■ 田中副委員長

- ・ 次のP13④との関係性も強い。ここに野崎委員の言われた趣旨が記載されているように思う。

■ 森安課長

- ・ 現行計画でも、市民活動団体の活動拠点の整備は行うものとしているが、中間支援組織の拠点を整備するとは書かれていない。結果として中間支援組織にその運営を委託した

ということはあるが、中間支援組織の活動拠点を提供したわけではない。

■ 田中副委員長

- ・ P12 の中段にある「中間支援組織の設立サポート及び活動拠点の設置」は、「市民活動の活動拠点」をいうニュアンスか。

■ 森安課長

- ・ その通りである。そのように修正したい。

■ 田中副委員長

- ・ それでは「市民活動の拠点」として記載しなければならないだろう。

■ 森安課長

- ・ そのように修正したい。

■ 菅原委員長

- ・ ではこの第三段落目はそのような趣旨が伝わるように修正することとしたい。

■ 田中副委員長

- ・ P12 は、「市民活動」という言葉を入れて、「中間支援組織の設立サポート及び市民活動拠点の設置による支援」という文言にしてはどうか。さらに、「なお、市民活動の拠点は武蔵野プレイスに移った」、という事実も、後ろと重複するがここに記載すべきではないか。

■ 菅原委員長

- ・ 事実を丁寧に伝わるように工夫をしつつ、修正することとしたい。

➤ 論点 8 : P13④「活動拠点の整備」について

■ 野崎委員

- ・ P13 の 6 行目以降の部分について、何を位置づけたのか、ということが記載されておらず文章表現が不十分である。

■ 森安課長

- ・ 「閉鎖し、」のあとに「市民協働サロンを位置づけた」ということが伝わるように、文言を追加するよう修正したい。
- ・ 市の考え方としては、広義の協働、すなわち企業との協働や市民活動相互の協働は武蔵野プレイスで行おうと考えている。あくまで市民協働サロンは行政と市民活動との協働の場として位置づけている。
- ・ 市民協働サロンの持っていた市民活動支援の機能は武蔵野プレイスに持っていくが、市役所と協働をする場合には、市民協働サロンを使いましょう、ということなのだが、その点が上手く伝わっていないのだろう。

■ 坂口委員

- ・ 市民協働サロンにチラシは置いてあるのか。チラシが置いてあれば支援機能があるとは言える。分断、など難しく考える必要はないのではないか。

■ 田中副委員長

- ・ 以前はスタッフがいて、支援を行っていた。今も場所はあるが狭くなり、スタッフもい



ない。市民の感覚からすると、そこで相談ができる、市民活動の支援場所である、という印象はないだろう。

■ 野崎委員

- ・ 多くの市民は閉鎖したと思っている。

■ 菅原委員長

- ・ 分断されているかどうかはともかく、市民側の懸念を明確に表現するものとして修正したい。

➤ 論点 9 : P17 「施策名：意欲・能力向上のための機会の提供」の変更について

■ 田中副委員長

- ・ 事業概要は比較的幅広く書かれている。

■ 野崎委員

- ・ 関連して、P15に、「やりたい気持ちを高めることが重要です」という記載があるが、表現としておかしくないか。「やりたい気持ちをもった市民が育ってくることが重要です」というような表現にしてもらいたい。

■ 菅原委員長

- ・ では、意欲・能力の向上というストレートな表現からもう少しやわらかい表現にするものとしたい。また P15についても野崎委員の意向を汲むこととしたい。市民活動に関する学びの機会の提供」とすることとしたい。

■ 坂口委員

- ・ 市民活動、という言葉をつけたほうが良い。

■ 森安課長

- ・ 「学びの機会」としてはどうか。

■ 田中副委員長

- ・ 「市民活動に関する学びの機会」ということでよいのではないか。

■ 菅原委員長

- ・ 全体を眺めて調整したい。

➤ 論点 10 : P25 「①中間支援の支援力強化に向けた取組み」の事業概要について

■ 田中副委員長

主述の関係や表現の問題であり、表現だけ変更をお願いしたい。

➤ 論点 11 : P16 「同じテーブルにつく」、という表現の追加

■ 菅原委員長

- ・ 課題の部分に、冒頭に言われた問題提起をきちんと書き込むということによいか。

■ 野崎委員

- ・ それでよい。

➤ 論点 12 : P3「地域・社会」について

■ 西山委員

- ・ 課題をみると、グローバルであったり、ローカルであったり、各市民団体は様々な課題に取り組んでいるのだと思う。ここの趣旨は、団体を育てる武蔵野という地域社会というイメージを共有していこう、ということだと思う。「グローバルおよびローカルな課題を解決に結びつける地域社会」、というような表現ではどうか。

■ 田中副委員長

- ・ 地域社会は対象ではなく主体として考えた方がよいというご意見だと認識した。

■ 坂口委員

- ・ 地域社会というと、先ほどの学習と同様、固定的な観念がある。本当は社会が良いと思う。しかし社会では広すぎるだろうということで、苦肉の策として地域・社会になったという経緯がある。

■ 田中副委員長

- ・ 主体として考えると地域社会、としても良いと思うが、活動成果の広がりや影響の及ぶ範囲は全世界であるということから、社会、とした。

■ 菅原委員長

- ・ その広がりが「地域・社会」と「・」を入れることで伝わるか。

■ 西山委員

- ・ 地域と社会は語として位相である。

■ 田中副委員長

- ・ 四角囲み部分についてのみ言えば、「地域・社会」という文言をやめて「繋げていくこと」とする手もある。

■ 笹野委員

- ・ 「像」という言葉が必要がなく、「地域・社会」にしてはどうか。

■ 坂口委員

- ・ 田中委員の案でも良いと思うが、他の部分で地域・社会となっている箇所をどうするかという問題は残る。

■ 菅原委員長

- ・ 西山委員のご意見は。

■ 西山委員

- ・ 武蔵野市の基本計画であるということからいえば、「地域社会」という語でよいのではないか。

■ 坂口委員

- ・ 地域社会という言葉には、エリアベースの 이슈という印象が強い。

■ 西山委員

- ・ 課題はグローバルであっても、ベースは武蔵野市にある活動を応援するというのではないか。

■ 坂口委員

・市民活動は本来課題があればエリアを越えて活動していくもの。税金を貰っている人にだけ役立っていくということなのか、どうなのかということだと思う。

■ 笹野委員

・ グループインタビューの中にも、グローバルな活動の武蔵野支部という活動もあるという意見があった。

■ 坂口委員

・ であれば、「地域社会」ではなく、「地域」でよいのではないか。

■ 西山委員

・ それならば「社会」のほうが良い。

■ 笹野委員

・ 「社会像」ではないか。

■ 坂口委員

・ 私も本来は社会像が良いと思うが、地域という言葉がはずせないということだったので今の提案を行ったものである。

■ 菅原委員長

・ 社会像が最大公約数では。  
・ 太文字内は社会。場面によって必要があれば地域社会とすることとしたい。

➤ 論点 13 : P8 「自律・自立」について

■ 笹野委員

・ 自律・自立するスキルを持っている人たちばかりではない。自律・自立した団体になってほしい、また学習してそのようになってほしい、という側面は行政としてはあるだろうが、そうではない団体も許容していくことも必要だとも思う。

➤ P17 以降、「V.実施計画」について

■ 笹野委員

・ 記載してある事項は例示として考えれば良いか。それともマニフェスト的に、約束だと考えれば良いか。

■ 菅原委員長

・ ここに記載した施策に限定されるものではない。

■ 森安課長

・ 取り組み例にしては、かなり断定的な書き方になっているため、文章表現上、断定的な要素が弱まるように工夫したい。

■ 笹野委員

・ 全体としては賛成ではあるものの、例えば P27 のコミュニティセンターの例について記載した部分についても、この計画によって記載されていることに縛られると感じられると趣旨とそぐわないように思う。

■ 田中副委員長

- ・ 断定調で記載すると誤解を招く。ひとつのやり方としては、表形式にはせず、箇条書きで記載する方法もある。

■ 森安課長

- ・ 各施策の内容について確認して頂き、事業概要の文章はもう少し表現をやわらかくしたい。しかしスケジュールについては、5年後に進捗管理を行った際、振り返りを行うことが不可能となってしまうため、この形は維持したい。

■ 笹野委員

- ・ その考え方に賛成である。

■ 野崎委員

- ・ 「スケジュール」という記載についても、「目標のスケジュール」とするくらいではどうか。

■ 笹野委員

- ・ スケジュールという言葉はなくてもよいのではないか。

■ 森安課長

- ・ ではスケジュールということばをとり、「計画期間」として、「前期」「後期」としてはどうか。

■ 田中副委員長

- ・ P23 について、例えば学びということであれば、ここに書かれている内容以外の講座などをやることも許容範囲内だと考えて良いか。

■ 菅原委員長

- ・ その理解でよいと思う。

■ 坂口委員

- ・ P18 に、「③対象者別の活動のきっかけを提供する場の検討」という記載があるが、「検討」を行う事業というのは有り得ない。記載を変更すべきではないか。
- ・ P21 「①相談体制の拡充」については、相談能力をどれくらい向上させていくのかが大切になってくる。現在の事業概要の表現だと、非常に狭い相談テーマのように思う。特にマッチングのニーズが高まっていることを踏まえて、連携と協働の促進という観点からの相談に乗れるようなニュアンスを反映すべきではないか。また団体だけではなく、住民（個人）の相談にも応じられるというニュアンスを含められれば良い。
- ・ P25 の「④中間支援組織の支援力強化」という点であれば、中間支援組織の人材育成が必要だという言葉を入れてほしい。最低賃金で雇う、緊急雇用のような形で人を雇っても、人が育たない。安定して雇用する形で中間支援の人材を育成することが必要だし、そうしたニュアンスを計画に入れることは大変先進的でありぜひやってほしい。
- ・ P28 には、実際にマルチステークホルダーによる検討プロセスを事業概要に組み込んで頂きたい。実際に茨城や三重ではマルチステークホルダーによる円卓会議を行う例も登場している。マルチステークホルダーの場の試行といったことも記述をしていただきたい。

■ 菅原委員長

- ・ 事業概要のひとつとして書くには少し重い。検討しますとまで書くのはそぐわない。
- **坂口委員**
  - ・ 事業概要に入れるとやらなければならないこととして固まってしまうニュアンスが出るので、本文に入れるという手もあるだろう。
- **田中副委員長**
  - ・ P17、18 の一つ目の施策について、「（１）活動への参加機会の提供・充実」とあるが、12月段階では「活動のきっかけづくり」という記載だった。活動の参加機会の提供・充実というと、本当に活動する場所を提供することを意味する。そうではなくて、きっかけを提供するということが趣旨ではないか。現在の記載は少し直接的すぎる。元の記載のほうがよいのではないか。
- **森安課長**
  - ・ 趣旨について了解した。元に戻したい。
- **野崎委員**
  - ・ 「協働コーディネーターの育成」について、協働のみならず、市民活動支援全体を支援するコーディネーターとして位置づけられないか。
- **菅原委員長**
  - ・ P18にある「ボランティアコーディネーター」については、市民と市民活動の間を繋ぐより広いコーディネーターの機能を述べている。今の野崎委員のご指摘の点は、たしかに協働に特化したコーディネーターという趣旨となっている。P18にはそのニュアンスが出ているように思う。
- **MURC**
  - ・ P25にある「協働コーディネーターの育成」という観点は今野崎委員が言われた部分も含まれている。「協働に向けたネットワークの構築」にもコーディネーターについての記載があり、ここから限定的なイメージを受けられてしまう可能性がある。表現上の工夫をしたい。
- **菅原委員長**
  - ・ 記載ぶりの修正で対応したい。
- **田中副委員長**
  - ・ P17の基本施策「市民活動の場の活用」という記載だが、「活用」というと既にある場を活用するというイメージがある。だが、もっと「場を広げていく」というニュアンスが前に出ていた方がよいのではないか。行政の立場からすれば、場を広がるということが必要なのではないか。あるいは活用促進か。
- **森安課長**
  - ・ 既にある場がなかなか活用されていないという現状に対する思いもあり、こういうニュアンスとなっている。活用促進としてはどうか。
- **菅原委員長**
  - ・ それではそのようにしたい。

➤ **今後の進め方について**

- ・ 「VI. 計画の実現に向けて」以下は皆様から気がついた時点でご意見を頂きたい。
- ・ あと1-2週間で最終案に持っていかなければならない。今日の意見を反映したものを、皆様にお示しすることとしたい。その上で、表現上の部分については、委員長にお預けいただくということで良いか。

■ **委員一同**

- ・ (異議なし)

■ **菅原委員長**

- ・ 2月の第1週の後半には、かなり固まったものとしてあげたい。2月15日には市長に答申をすることとなる。このスケジュールについてもご了解頂きたい。

■ **委員一同**

- ・ (意義なし)

### **3. その他**

■ **事務局**

- ・ 事務連絡としては、資料2として第5回の議事録を配布した。1/25までに修正点を返信頂いている。何かあれば1/31までに何かあればご連絡をお願いしたい。2/1以降に本市ホームページに掲載する。
- ・ 今回の議事録についても出来次第メールでお送りする。

■ **森安課長**

- ・ 6回の委員会、グループインタビュー、ヒアリングなど皆様には多大なご協力を頂いた。委員会の開催数は少ないが、最後2回については3時間お付き合いいただくなど、非常に濃密な意見交換ができたと思っている。
- ・ 計画はできても、実態をつくるのはこれからである。引き続き途中で色々ご相談をすることもあろうかと思うが、よろしくお願ひしたい。

以上